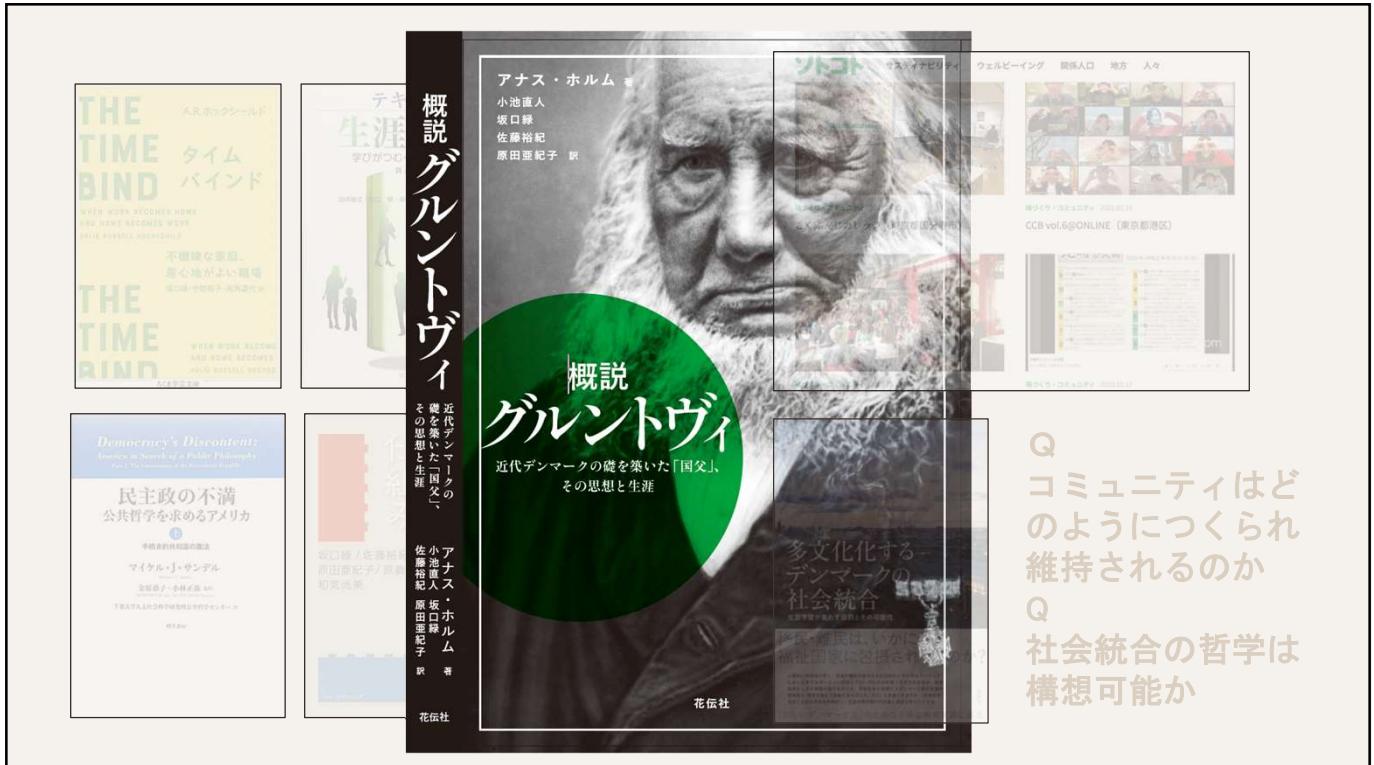




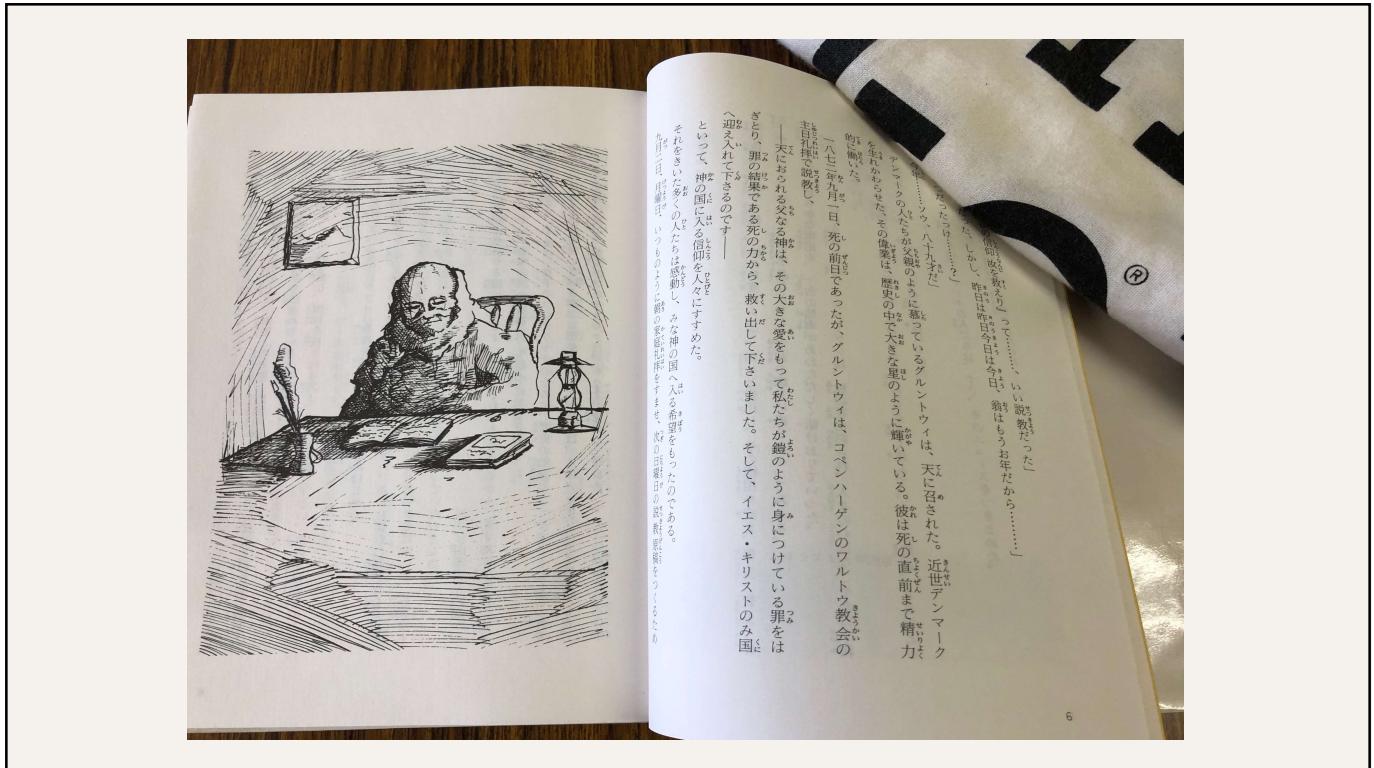
10



11



12



13

宣教への派遣・伝道
たとえ塔は崩れ

400

Kirken der er et gennemt Hus
K. Nicolai F. S. Grundtvig, 1783-1872
曲: Ludwig M. Lindeman, 1812-1885

1 たとえ塔は崩れ 瓦礫となるとも、
主の教会から 鐘はなお響く。
想いを求めて 憂む者すべて
ここへ招かれる。

2 人の手が造る 建物に住まず、
全能の神は 天におられて、
われらを愛して 境界をおくり、
共に住まわれる。

3 神の家のため われらも選ばれ、
生きた石として 王に用いられる。
二人、三人が 共に集うとき、
王イエスもおられる。

4 鐘の音と共に この場に集まり、
みことばを受けて 造りかえられる。
神の民はみな キリストにおいて
一つとなる、アーメン。

マタ16:18-20 エフ.2:11-22 1ペト2:4-9
コリ5:1 ロコリ3:16-17 王上8:27-28

讃美歌21

400

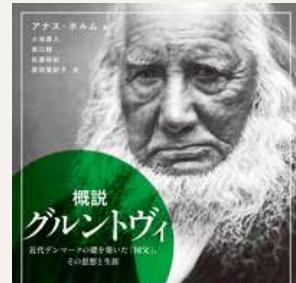
たとえ塔は崩れ

詞: Nicolai F.S. Grundtvig

ホルム著, 2024, 『概説グルントヴィ』花伝社

序 グルントヴィの生涯

- 第1章 ロマン主義者
- 第2章 神話論者
- 第3章 牧師
- 第4章 歴史家
- 第5章 教育者
- 第6章 讚美歌作家
- 第7章 政治家
- 第8章 デンマーク人
- 第9章 デンマークにおけるグルントヴィの遺産
- 第10章 世界のなかのグルントヴィ



今あらためて脚光を浴びる
北欧の教育思想家、
N.F.S. グルントヴィ

N.F.S. グルントヴィ (1783-1872)

1. グルントヴィの「フォルケホイスコレ」構想とその後の展開

- 「生のための学校とソーアのアカデミー」 (1838)

聖職者養成/学者養成/市民養成←入学資格を問わず、「農民、法律家、聖職者、教師、行政官等の候補生」たちが、同じ国民あるいは市民という資格において学べる場が必要

- ケンブリッジのトリニティ・カレッジがモデル
- ヨーテボリに北欧の中核的な高等教育機関として「ソーアのアカデミー」を設立することを国王に進言

16

- 1) 生きた言葉による教育
- 2) 対話と相互作用
- 3) 歴史的・詩的な精神性
- 4) 試験の廃止と「生の啓発」*

*/*livets oplysning, life's enlightenment*

「我々の学校では、…若者たちがその目で見て、主[イエス]が彼らに与えた知性を働かせ、母語で考え、話し、先祖が行い、考え、言い、歌った注目すべきことについての知識を身につけるよう」にする（ホルム2024:116）。

17

Rødding Højskole



1844-



Uldum Højskole



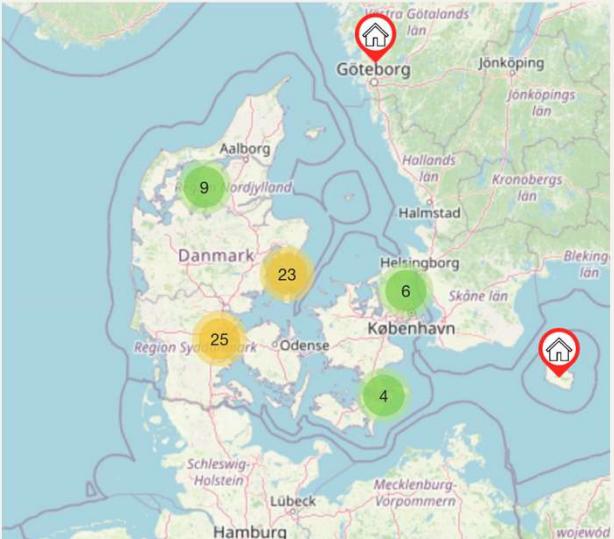
1849-



18



HØJSKOLE ELEVER

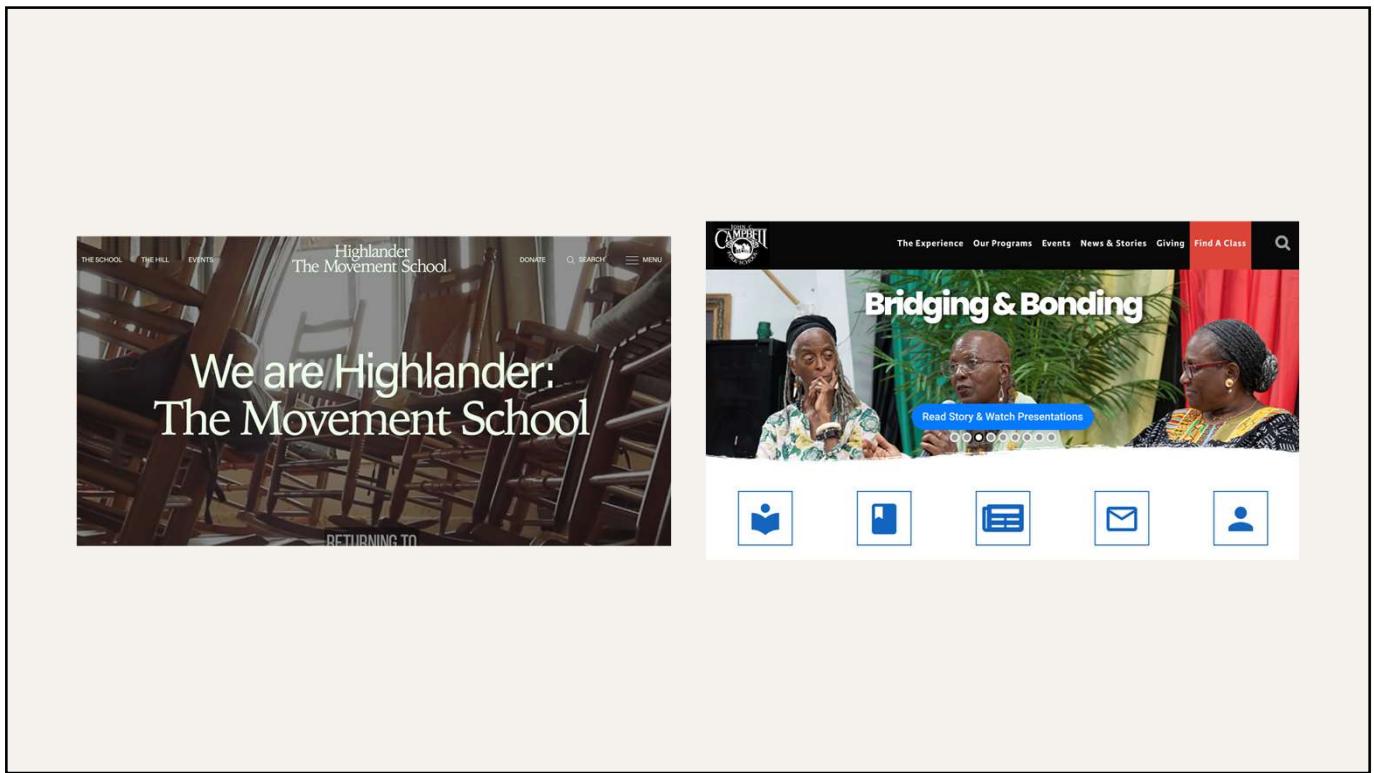


HØJSKOLERNE



FIND HØJSKOLEOPHOLD

19



20

「北欧の友人たちの多くは、デンマークの偉大な牧師であり哲学者グルントヴィをよく知っています。グルントヴィは、エリートだけを対象とするのではなく、多様な人々のための教育機関、フォルケホイスコールを提唱しました。それは、社会をよくすることに貢献するような、アクティブ・シティズンシップを育成する場所です。湖に投げ込まれた小石が波紋を広げ、それが海を越えてアメリカに渡ったからこそ、我々は今ここに合っているのです」

(バラク・オバマ米大統領[当時]の北欧首脳会議訪問時スピーチより、
2016年5月3日)

21

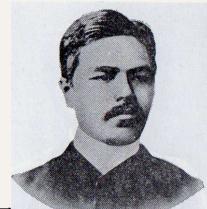
2. 日本におけるフォルケホイスコレの受容

1) 1900-1940年代

明治期の農政学者

矢作栄蔵「農業経済論」(1901)、「丁抹の生産組合」(1908)、「農業振興策と丁抹国実例」(1908)
佐藤寛次「丁抹の復興」(1904)

那須皓A. H. ホルマン『国民高等学校と農民文明』(1909=1913)



内村鑑三(1868-1919)

明治・大正期のキリスト者

内村鑑三「デンマーク國の話」「聖書之研究」(1911=1913)

杉山元治郎、福島県原ノ町に「農民高等学校」を設立(1913)

内務省の藤井武(→加藤完治)、山形県に「自治講習所」を設立(1915)

「北欧の弱小国デンマークがイギリスに破られ、ドイツに屠られ、今まで亡國の悲運に陥るところである。秋、偉人グランドウイーがとった道は、結局農村青年に理想信仰を植え付ける事にあつたのである。僕らはこれを深く味わわねばならぬ」(加藤完治)

2) 1940-1980年代

昭和期の社会教育学者

寺中作雄『公民館の建設』(1946年)

「かつて北欧に雄飛したデンマークは英國に撃破され、墮落聯合軍に退廃し、敗惨絶望のどん底に陥ったとき…大聖グルントイッヒは青少年に民族精神と協同心の尊貴を説いて、国民高等学校教育による精神立国の根底を培った」(寺中 1995:183)

武田清子「加藤完治の農民教育思想」(1965)

加藤の農民教育は、「個的個人性を含んだヒューマニズムの可能性」なきまま、汎神論的に日本国家を意味付け、「大日本帝国という大きな命の跡々益々栄えてゆくのに自己を捧げ尽くす」ことを、「皇國精神、武道、農村經營」といった科目と共に学ぶことを意味した(武田1965: 64-71)

碓井正久「民主主義社会のために」(1981)

「皇道主義史観に基づく偏狭な国史に換骨奪胎されて教育の中心にすえられ、主知主義批判をかさねていった」(碓井1993:149)

3. 成人教育の現代的課題

1) 新たなフォルケホイスコーレへ

- オルタナティブな価値を追求するワークショップ（コースコード1999:371-377）
- グローバルな市民の育成という側面である(Lövgren 2021)

→1990～ 日本から多くの若者が留学先として選択

日本グルントヴィ協会 (1992-)

北欧留学情報センター (1995-)

IFAS (2015-)

→2016頃～ 帰国者が日本各地でフォルケホイスコーレを運営

NoMaFo(長野県上水郡信濃町, 2016-)、 Change Makers' College (宮城県陸前高田市, 2018-)

School for Life Compath(北海道東川町, 2020-)ほか

24



School for Life Compath



25

2) 社会的包摶に寄与する論理は何か

- 「日本、韓国、中国、アメリカ、カナダ、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、ロシアでは、政治的抑圧、硬直した教育形態、加熱する競争を強いられる試験制度に対抗する思想として、グレンントヴィが読まれている」（ホルム2024:187）。
- 同じ属性の人に出会う場所なのか、異なる価値観に揺さぶられる場所なのか
- 「グローバルな市民の育成」…「内なる国際化」の論理はどのように導出されうるか？

26



Grundtvig in Hollmann's book, cited in Uno(2003:68).

Reference:

- N. F. S. グレンントヴィ, 2014, 小池直人訳, 『ホイスコーレ上』風媒社.
 北欧留学情報センター, 2022, 『Folkehojskoleに行こう』ビネバル出版.
 アナス・ホルム, 2024, 『概説グレンントヴィ』小池直人・坂口緑・佐藤裕紀・原田亜紀子訳, 花伝社.
 オーヴェ・コースゴー, 1999, 川崎一彦監訳高倉尚子訳『光を求めて』東海大学出版会.
 Johan Lövgren, 2021, From nation building to global citizenship: human rights education in the Nordic folk high schools, Human Rights Education Review, pp.1-21.
 清水満, 1996, 「生のための学校」, 清水満編著『生のための学校 (改訂新版)』新評論.
 武田清子, 1965, 「加藤完治の農民教育思想 : 国民高等学校運動と満州開拓団」国際基督教大学教育研究所編『教育研究』, 第11号, pp.47-103.
 寺中作雄, 1995, 『公民館の建設』国土社.
 碓井正久, 1981, 「民主主義社会のために」碓井正久編『社会教育——文化の自己創造』講談社, (=碓井正久, 1993, 『社会教育の教育学』国土社, p.148).
 矢野拓洋・松浦早希・松永圭代・真庭伸吾・一般社団法人IFAS編著, 2022, 『フォルケホイスコーレのすすめ』花伝社.

27